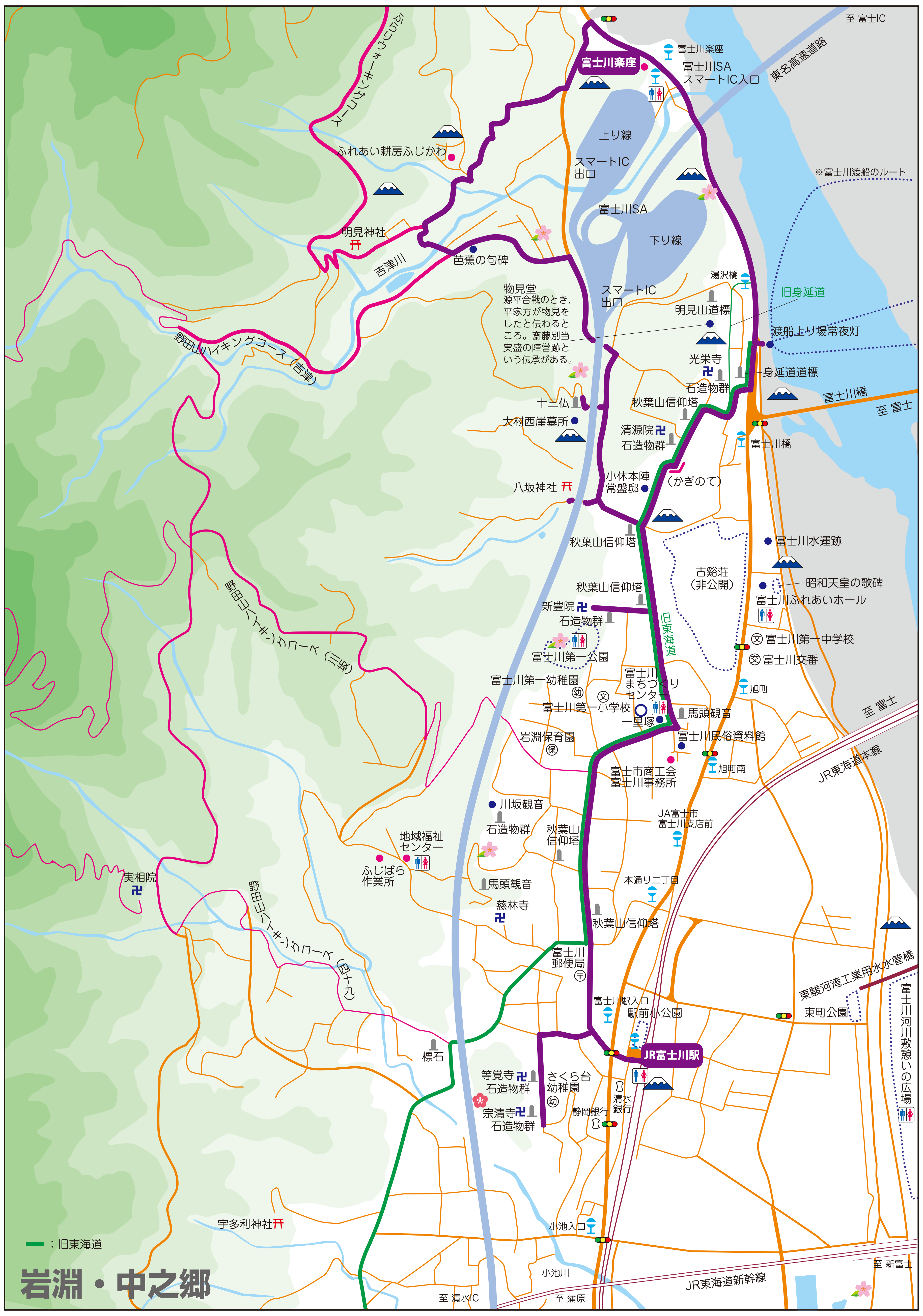
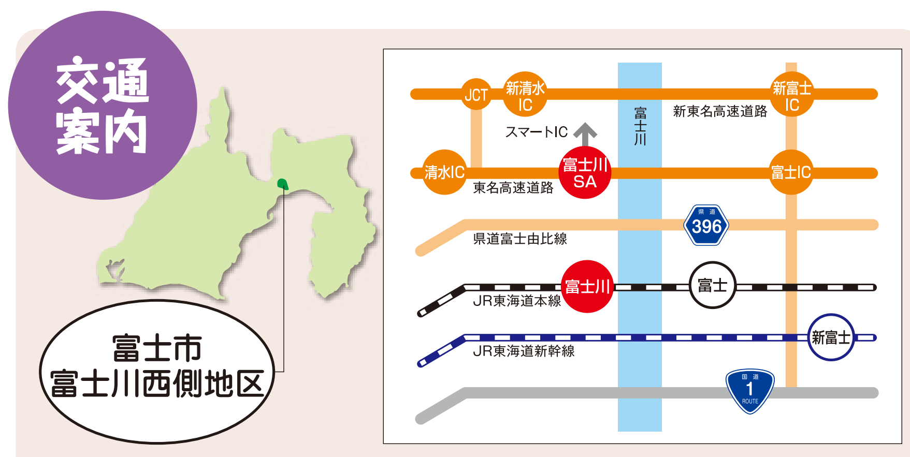
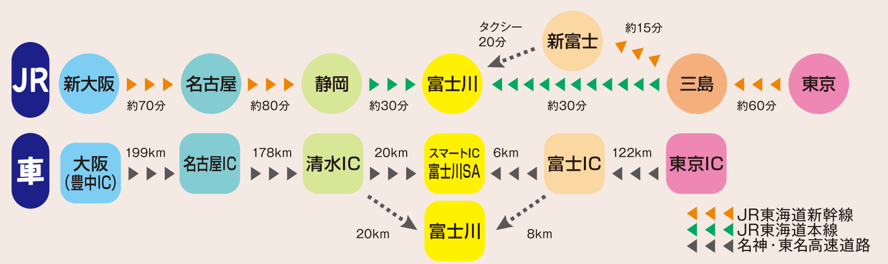

至 富士IC
富士川楽座
富士川SA スマートIC入口
東名高速道路
上り線
スマートIC出口
富士川SA
下り線
スマートIC出口
※富士川渡船のルート
ふれあい耕房ふじかわ
明見神社
芭蕉の句碑
古津川
野田山ハイキングコース(西コース)
物見堂 源平合戦のとき、平家方が物見をしたと伝わるところ。斎藤別当実盛の陣営跡という伝承がある。
明見山道標
渡船上り場常夜灯
旧身延道
光栄寺 石造物群
身延道道標
富士川橋
十三仏
大村西崖墓所
秋葉山信仰塔
清源院 石造物群
小休本陣常盤邸
(かぎので)
八坂神社
富士川水運跡
秋葉山信仰塔
古跡荘(非公開)
昭和天皇の歌碑
富士川ふれあいホール
新豊院 石造物群
旧東海道
富士川第一中学校
富士川第一公園
富士川第一幼稚園
富士川まちづくりセンター
富士川第一小学校
一里塚
富士川民俗資料館
岩淵保育園
富士市商工会富士川事務所
JR東海道本線
JA富士市 富士川支店前
川坂観音 石造物群
秋葉山信仰塔
地域福祉センター
ふじばら作業所
実相院
馬頭観音
慈林寺
秋葉山信仰塔
本通り二丁目
富士川郵便局
東駿河湾工業用水水管橋
富士川河川敷憩いの広場
JR富士川駅
駅前小公園
東町公園
等覚寺 石造物群
さくら台幼稚園
宗清寺 石造物群
野田山ハイキングコース(西コース)
宇多利神社
小池口
小池川
JR東海道新幹線
至 新富士
至 清水IC
至 蒲原
━ :旧東海道
岩淵・中之郷

交通案内


富士市
富士川西側地区
JCT
新清水IC
新富士IC
新東名高速道路
スマートIC
富士川
清水IC
富士川SA
富士IC
東名高速道路
396
県道富士由比線
富士川
富士
JR東海道本線
新富士
JR東海道新幹線
1

アクセスいろいろ


JR　新大阪 ▶▶▶ 約70分 名古屋 ▶▶▶ 約80分 静岡 ▶▶▶ 約30分 富士川 ◀◀◀ 約30分 三島 ◀◀◀ 約60分 東京
新富士 → 富士川 タクシー20分　新富士 ← 三島 約15分

車　大阪(豊中IC) ▶▶▶ 199km 名古屋IC ▶▶▶ 178km 清水IC ▶▶▶ 20km スマートIC富士川SA ◀◀◀ 6km 富士IC ◀◀◀ 122km 東京IC
清水IC → 富士川 20km　富士IC → 富士川 8km

◀◀◀ JR東海道新幹線
◀◀◀ JR東海道本線
◀◀◀ 名神・東名高速道路

観光のお問い合わせは

富士市観光課	0545-55-2777
富士山観光交流ビューロー	0545-64-3776
新富士駅観光案内所	0545-64-2430
富士宮市観光協会	0544-27-5240
富士川まちづくりセンター	0545-81-1111
松野まちづくりセンター	0545-56-1055
富士市　道の駅　富士川楽座	0545-81-5555
富士市観光案内所	0545-81-1900
山梨交通バス㈱	0544-27-0111

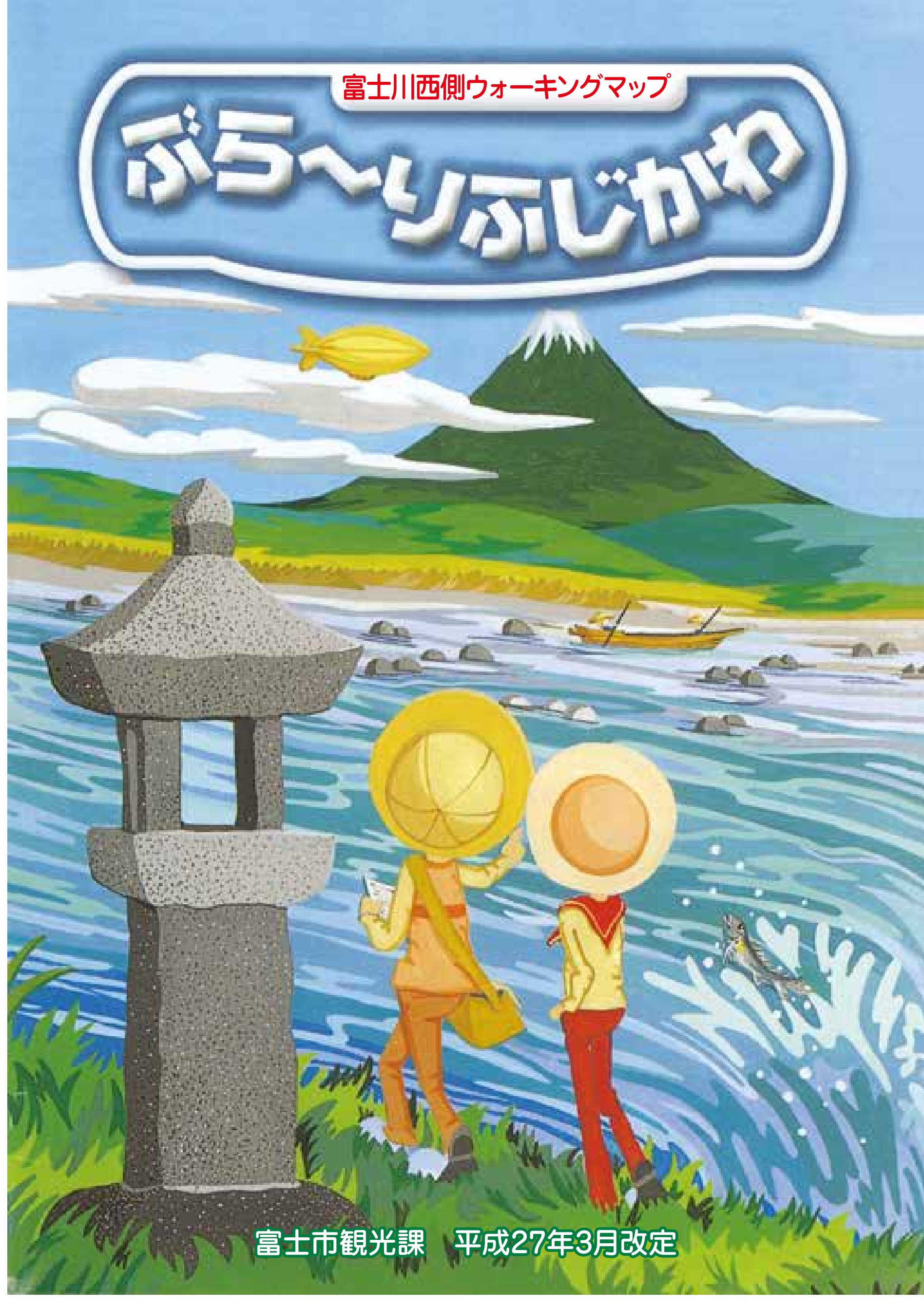
FUJI CITY 富士市

観光ガイドのご案内

富士川観光ガイド協会「渡しの会」
TEL 0545-81-1280（富士市商工会富士川事業所内）　FAX 0545-81-2716
ガイド料／無料
申し込み／2名以上で2週間前までにお申し込みください。
※申し込み、お問い合せは平日にお願いします。

富士川西側ウォーキングマップ

ぶら〜りふじかわ

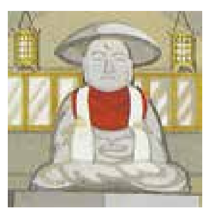


富士市観光課　平成27年3月改定

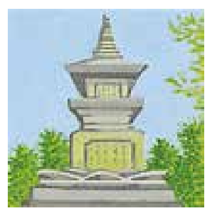
街道を行き交う旅人を偲ぶ（岩淵・中之郷地区）

岩淵・中之郷地区には、旧東海道に沿って寺社の境内などに、さまざまな石造物を見つけることができます。特に岩淵地区は、交通や物流の要衝として隆盛をきわめたとあって、富士川渡船や舟運に関連した石造物を見つけることもできます。

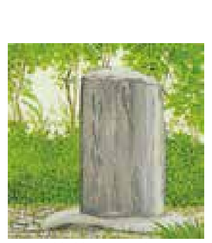
◆旧東海道、寺社の境内などで見られる石造物


宗清寺の笠被り地蔵

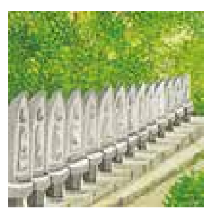
【笠被り地蔵】　笠被り地蔵は、中之郷村の名主、田中傳四郎が幼くして逝ってしまった幼児の供養のため信州高遠の石工・又兵衛と金左衛門に建造させ、寛政9年（1797）に寄進しました。　☞**宗清寺（そうせいじ）**


新豊院の渡船安全供養塔

【岩淵渡船河岸場安全供養塔】　岩淵渡船河岸場安全祈願塔は、文化6年（1809）、密厳心宗和尚の代に駿州徳倉の石工・勘左衛門好盛と岩淵村の石工・天野久蔵に依頼し建立されました。このほか、新豊院には、山門、火伏地蔵、六地蔵、念仏塔、巡拝塔、百万遍念仏塔などがあります。　☞**新豊院（しんぽういん）**

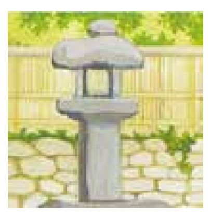

芭蕉の句碑

【芭蕉の句碑】　句碑の正面と左右に、「風になびくその富士川の蛍かな　乙児」、「霧しぐれ富士を見ぬ日ぞ面白き　はせを」、「奥の斗の富士を隠して時雨哉　白盆」の歌が彫られています。芭蕉の句は江戸から門弟千里を伴って故郷伊賀におもむく際に、箱根の関所を越えるときに詠んだ句で「甲子吟行」に載せられています。

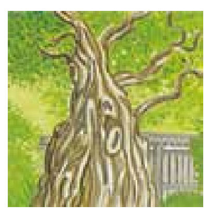

十三仏

【十三仏・大村西崖墓所】　十三仏とは、死者の追善の法事をおさめるとき、その忌日にあたる十三の仏を信仰するものです。岩渕村の名主で渡船行司、斎藤縫左衛門家の墓所に、元禄年間（1688〜1703）、死者供養の忌日にちなみ建立されましたが、宝永・安政地震で破損し、慶応元年（1865）に再建されました。林をへだて南側には、新豊院の大観音像を描いた大村西崖の墓所があります。大村西崖は、東京美術学校教授などを歴任し、明治の美術界の発展に尽力しました。著書には、「東洋美術大観」、「密教発達志」などがあります。
大村西崖の胸像は、富士川ふれあいホールにあります。

【秋葉山信仰塔】　遠州秋葉山大権現は、火伏せの神として、各村々に秋葉講があり、さかんに信仰された石塔です。　☞**旧東海道**


秋葉山信仰塔

【六地蔵】　地蔵は、釈迦がなくなってから弥勒仏が出現するまでの無仏のときに、この世に現れ衆生を救済する菩薩で、六地蔵は、地蔵が、六道（地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天上界）を輪廻転生する衆生を救済することから、六つの分身を考えて六地蔵として信仰されました。　☞**宗清寺、新豊院、清源院**


常盤邸の槙

【題目塔】　日蓮宗独特の書体「髭題目」で、「南無妙法蓮華経」と彫られた石塔です。　☞**等覚寺、光栄寺**

【巡拝塔】　江戸時代に西国三十三所、四国八十八所、または坂東や秩父の霊場などを巡拝した人たちが寄進した供養塔です。　☞**新豊院**

「旧東海道の歴史を訪ねる」

旧岩淵間の宿周辺の東海道、富士川渡船にまつわる旧跡を歩く

ダイジェスト A コース　●移動時間 約 1 時間

富士川駅 ▶バス 10分 富士川楽座バス停 ▶徒歩 10分 渡船上り場常夜灯 ▶徒歩 5分 身延道道標 ▶徒歩 5分 小休本陣常盤邸 ▶徒歩 5分 新豊院 ▶徒歩 5分 一里塚・民俗資料館 ▶徒歩 15分 宗清寺 ▶徒歩 5分 富士川駅

ダイジェスト B コース　●移動時間 約 1 時間 15 分

富士川駅 ▶徒歩 5分 宗清寺 ▶徒歩 15分 一里塚・民俗資料館 ▶徒歩 5分 新豊院 ▶徒歩 5分 小休本陣常盤邸 ▶徒歩 5分 八坂神社 ▶徒歩 5分 十三仏・大村西崖墓所 ▶徒歩 10分 芭蕉の句碑 ▶徒歩 15分 富士川楽座バス停 ▶バス 10分 富士川駅

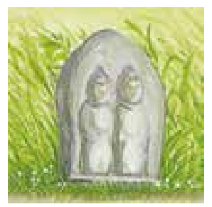
フルコース　●移動時間 約 1 時間 40 分

富士川駅 ▶徒歩 5分 宗清寺 ▶徒歩 15分 一里塚・民俗資料館 ▶徒歩 5分 新豊院 ▶徒歩 5分 小休本陣常盤邸 ▶徒歩 5分 身延道道標 ▶徒歩 5分 渡船上り場常夜灯 ▶徒歩 10分 富士川楽座 ▶徒歩 15分上り ふれあい耕房ふじかわ ▶徒歩 5分下り 芭蕉の句碑 ▶徒歩 10分 十三仏・大村西崖墓所 ▶徒歩 5分 八坂神社 ▶徒歩 25分 富士川駅

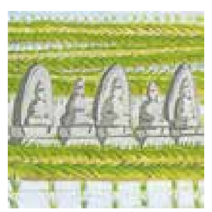
日持上人の足跡を偲ぶ（南松野地区）

南松野地区は、日蓮聖人の高弟・六老僧のひとりで大陸へ布教活動に渡った、日持上人生誕地として日蓮宗との関係が深い土地です。また、戦国時代には、武田氏の支配下におかれ、松野六人衆や血流川の伝承など、戦乱の世にまつわるさまざまな伝承が残されています。

◆南松野地区で見られる主な石造物


道祖神

【道祖神】　道陸神、岐神、幸神、賽神などと呼ばれる路傍の神で、さまざまな信仰、習俗、行事などがあり、とても生活に密着した神です。双体の道祖神は、この地域では唯一のものです。


清正公堂

【白衣観音】　三十三観音のひとつ、如意輪観音の坐像で、歯痛を鎮める観音「はくそんさん」として信仰されました。　☞**永精寺**

【馬頭観音】　馬頭観音は、頭上に馬の頭をいだいた観音像で、唯一憤怒相をしています。馬の供養とあわせて、特に江戸時代、庶民に信仰されました。　☞**風の宮、東光寺**

【題目塔】　日蓮宗独特の書体「髭題目」で、「南無妙法蓮華経」と彫られた石塔です。　☞**風の宮、法蓮寺、永精寺**

【六地蔵】　地蔵が、六道（地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天上界）を輪廻転生する衆生を救済することから、六つの分身を考えて六地蔵として信仰されました。　☞**東光寺**

【七夜待】　密教で毎月17日夜から23日夜までの7夜、千手観音、聖観音、馬頭観音、十一面観音、准胝観音、如意輪観音、勢至菩薩を順次、本尊として祀り所願成就を祈願する信仰です。　☞**清正公堂**

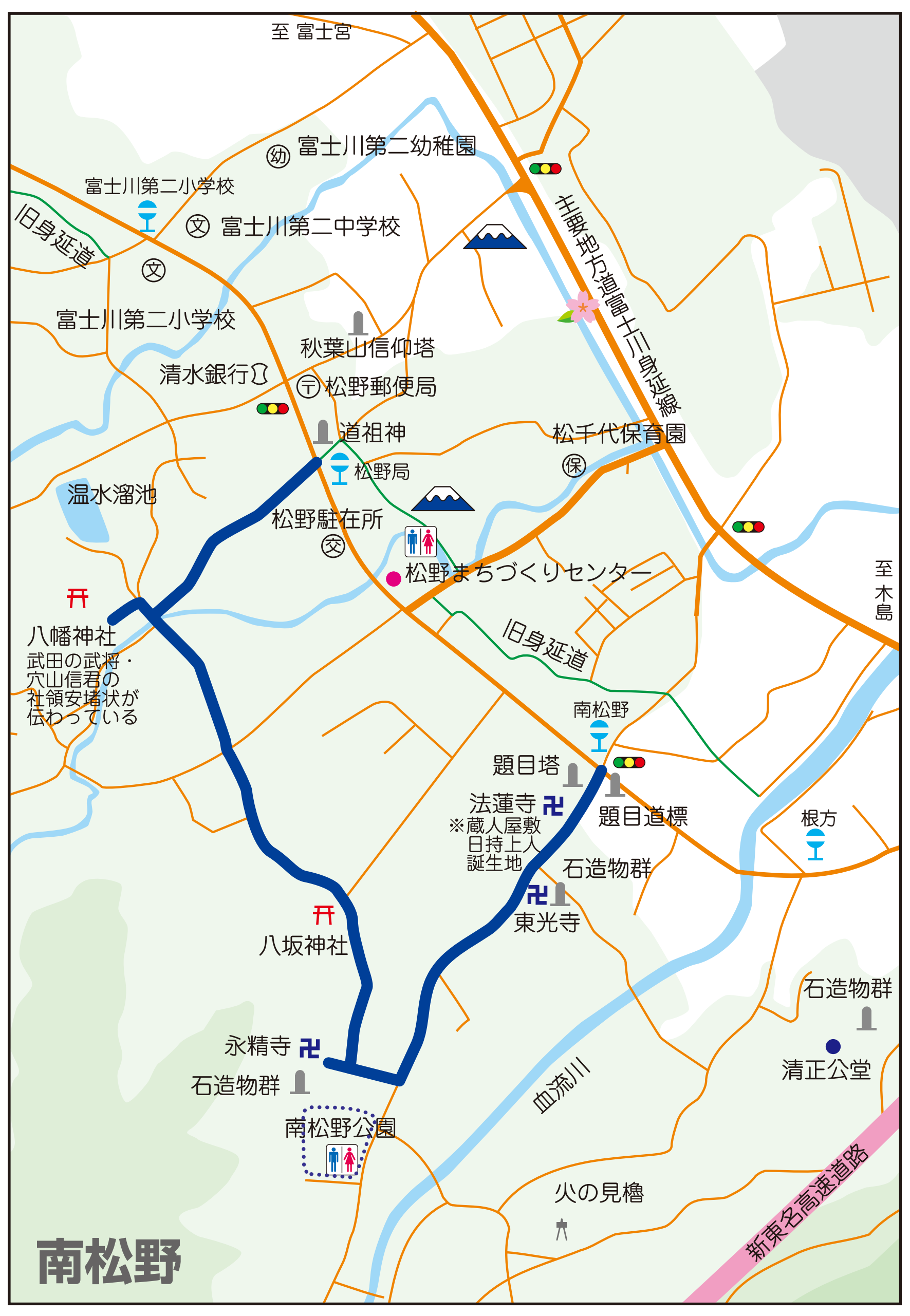
「日持上人の足跡を訪ねる」

この地で誕生し大陸へ渡った日持上人の旧跡を歩く

移動時間 約 1 時間

富士川駅 ▶バス 10分 富士川楽座バス停 ▶バス 5分 南松野バス停 ▶徒歩 5分 法蓮寺・東光寺 ▶徒歩 5分 永精寺 ▶徒歩 5分 八坂神社 ▶徒歩 10分 八幡神社 ▶徒歩 5分 松野局バス停 ▶バス 5分 富士川楽座バス停 ▶バス 10分 富士川駅

※山梨交通バスは、1時間に1本程度


至 富士宮
富士川第二幼稚園
富士川第二小学校
富士川第二中学校
旧身延道
富士川第二小学校
秋葉山信仰塔
清水銀行
松野郵便局
道祖神
松野局
温水溜池
松野駐在所
松千代発電所
松野まちづくりセンター
旧身延道
南松野
八幡神社 武田の武将・穴山信君の社領を寄進したと伝わっている
題目塔
題目塔
法蓮寺 ※親人聖宗 日持上人 誕生地
石造物群
東光寺
極方
八坂神社
永精寺
石造物群
石造物群
清正公堂
血流川
南松野公園
火の見櫓
新東名高速道路
至 木島
南松野

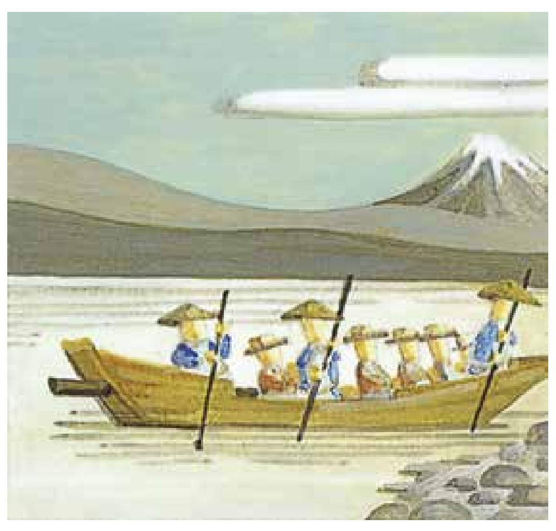
暴れ川・富士川と岩淵の変遷

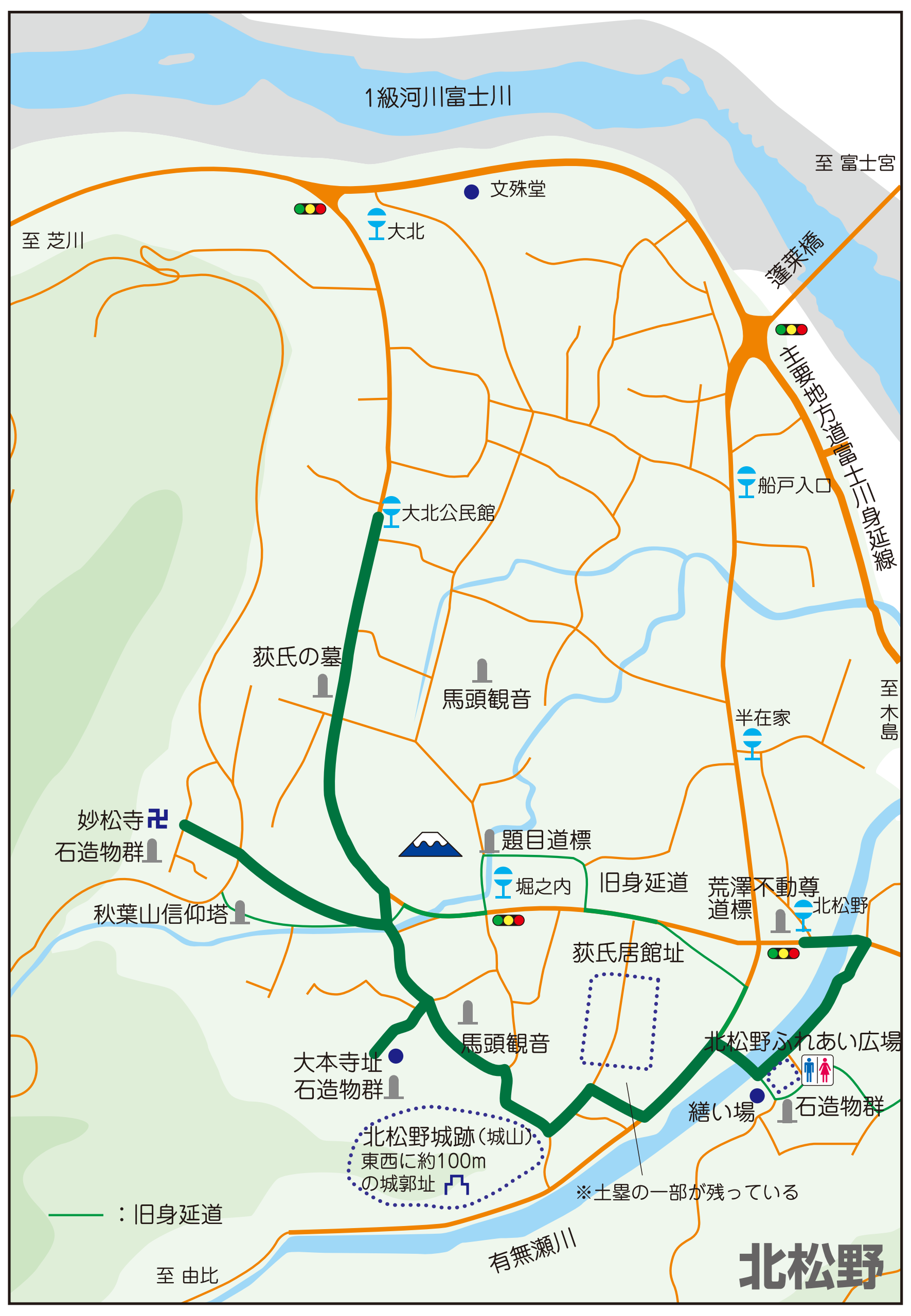
東海道の整備がはじめられたのは慶長6年（1601）、その1年後の慶長7年、これまで町並みさえもなかった岩淵村に富士川渡船の渡船役が江戸幕府から許与されました。また、慶長12年（1607）と慶長19年（1614）には、京都の豪商・角倉了以と玄之の父子が幕府の命令により富士川の開削をおこない、幾度かの改良により元和元年（1615）から富士川の上流の鰍沢から下流の岩淵までの18里の通船が可能となりました。暴れ川・富士川の渡船役を許与された岩淵村は、東海道の吉原宿、蒲原宿の間の宿として、また鰍沢、黒沢、青柳など甲州三河岸との交易を結ぶ岩淵河岸として急速に発展をとげ、交通の要衝、物流基地として隆盛をきわめました。また、東海道筋と日蓮宗総本山、身延山久遠寺を結ぶ身延道の起点のひとつにも数えられました。しかし、明治22年（1889）、岩淵駅が開設されると舟運を利用しての甲州方面への貨物が集まりましたが、明治36年に中央線の一部と笹子トンネルが開通し、大正9年（1920）に身延線の一部が開通したことによって、富士川の舟運は終焉をむかえました。また、富士川渡船は、大正13年に現在の富士川橋がかけられたことによって終止符をうちました。

【東海道】　慶長6年（1601）に東海道の整備がはじまり、つづいて慶長7年、江戸幕府から岩淵村に富士川の渡船役が許与され、慶長9年には一里塚が整備されました。岩淵村は、間の宿で、旅人の宿泊は許可されていませんでしたが、町並みは宿場に準じて整備されました。家並みは、小休本陣、茶屋、諸土産を商う店が軒をつらね、宿場にまさる繁栄だったといいます。岩淵名物には、栗の粉餅、竜王の煙草、雨畑の硯などがありました。また、宿場には、城下町の町並みが戦略的なねらいで大小いくつかの屈曲を組み合わせて造成されていたのと同様に、カギの手がありました。岩淵にも、西の小休本陣（小休本陣常盤邸）の北100mのところにカギの手を確認できます。ここが東の小休本陣址になります。

【富士川渡船】　慶長7年（1602）、富士川の川瀬が変わり川成島村で渡船ができなくなったため、江戸幕府は、岩淵村に渡船役を許与し、川成島の渡船名主たちが岩淵村に移住してきました。当時の渡船名主の筆頭は斎藤縫左衛門で、常盤弥兵衛、常葉伊右衛門ら渡船名主も移住してきました。その後、寛永10年（1633）、幕府の命令で対岸の岩本村に渡船役の3分の1を分役することとなり、岩淵村と岩本村が渡船役をおこなうことになりました。渡船場は、西岸は、尼ケ淵（富士川楽座付近）から中之郷村境（JR東海道本線鉄橋付近）、東岸は、松岡村一番出しから川下20丁の間で、瀬向きの良い場所でおこなうよう幕府から規定されていました。このため、対岸の松岡村にあった上・中・下の3本の往還（街道）に対応して、上渡船、中渡船、下渡船の主に3本のルートでおこなわれました。

【富士川舟運】　富士川舟運は、京都の豪商・角倉了以と玄之の父子2代にわたる開削工事により、元和元年（1615）から本格的に開通しました。それまでは、岩淵から鰍沢までの18里の物資の輸送は、人馬により3日間かかっていましたが、上りの輸送は人力で舟を引き上げることからこれまでとほぼ同じ3日から4日、下りの輸送は半日に短縮されました。また、これまで人馬で6俵しか輸送できなかった塩が、1艘で40俵も輸送することが可能になりました。岩淵から甲州方面へ輸送された塩は、瀬戸内産の竹原（広島県）、波止浜（愛媛県）の塩で、清水湊へ輸送された後、瀬取船という船で蒲原へ輸送され、ここから陸路で岩淵へ輸送されてきたといいます。一方、岩淵から輸送された塩に対し、甲州方面からは、廻米と呼ばれる年貢米が、甲州三河岸（鰍沢・黒沢・青柳）から、年間多いときで約50,000俵も輸送され、上納期間中の10月下旬から翌年3月にかけては、米俵を満載した舟が1日に50艘、多い日には200艘も下ってきたといいます。

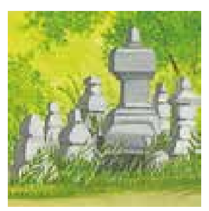

富士川渡船


1級河川富士川
至 富士宮
至 芝川
文殊堂
大北
身延線
北松野駅
富士川体育館
船戸入口
大北公民館
荻氏の墓
馬頭観音
半在家
至 木島
妙松寺
石造物群
秋葉山信仰塔
題目道標
堀之内
旧身延道
荒洲不動尊道標
北松野
荻氏居館址
大本寺址
石造物群
馬頭観音
北松野ふれあい広場
繕い場
石造物群
北松野城址(城山)
東西に約100mの城郭址
※土塁の一部が残っている
有無瀬川
至 由比
━ :旧身延道
北松野

戦乱の世、荻氏の跡を偲ぶ（北松野地区）

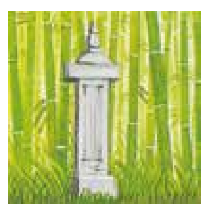
北松野地区は、南北朝時代末期から戦国時代まで、この地に居館を構えた、紀州武田氏の後裔・荻氏の居館址（土塁）、北松野城址、旧身延道など貴重な遺産が狭い範囲にまとまって残されています。

◆北松野地区で見られる主な石造物


荻氏の墓

【妙松寺の墓石群】　妙松寺の墓地には、この地域では最も古いとされている江戸時代初期から中期にかけての墓石を見ることができます。また、境内には題目塔、経典読誦塔などの石造物が残されています。

【荻氏の墓所】　荻氏歴代の五輪塔や内房口の合戦で討ち死にした荻図書之助清誉の墓と伝えられる宝篋印塔が残されています。


経典読誦塔

【大本寺址】　永禄12年（1584）、武田信玄が、興津薩埵山での北条氏との合戦の帰路、荻氏の居館、妙松寺、大本寺を焼き払い、その明かりをたよりに甲府に帰ったという伝承があります。裏山にが、経典読誦塔、万霊塔などの石造物が残されています。

【馬頭観音】　馬頭観音は、頭上に馬の頭をいだいた観音像で、唯一憤怒相をしています。馬の供養とあわせて、特に江戸時代、庶民に信仰されました。　☞**繕い場**

【題目塔】　日蓮宗独特の書体「髭題目」で、「南無妙法蓮華経」と彫られた石塔です。　☞**妙松寺**

【経典読誦塔】　経文を読誦して功徳を得ることは仏教修行のひとつで、読誦した経典の名称や回数を記録した石塔です。
☞**妙松寺、大本寺址**

【万霊塔】　生きとしいけるものすべてに霊を宿らせ、塔に繰り返し向かうことにより霊を供養しようとするための石塔です。
☞**大本寺址**
※妙松寺→この裏面で確認

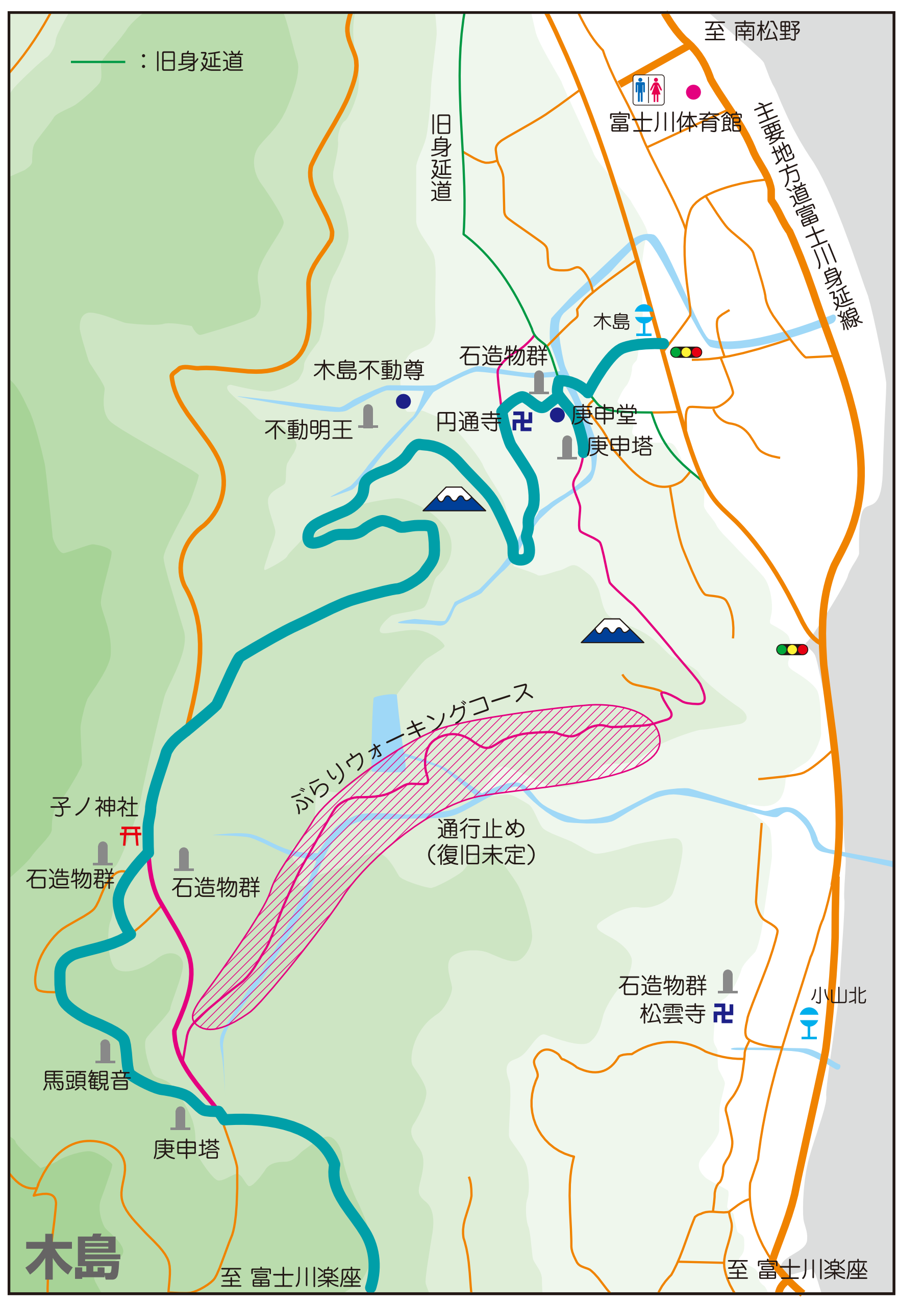
「旧身延道と荻氏の歴史を訪ねる」

武田氏との攻防を偲び荻氏の居館址を歩く

移動時間 約 1 時間 25 分

富士川駅 ▶バス 10分 富士川楽座バス停 ▶バス 10分 北松野バス停 ▶徒歩 5分 馬繕い場 ▶徒歩 5分 荻氏居館址 ▶徒歩 5分 大本寺址 ▶徒歩 5分 身延山道標 ▶徒歩 10分 妙松寺 ▶徒歩 10分 荻氏の墓 ▶徒歩 5分 大北公民館バス停 ▶バス 10分 富士川楽座バス停 ▶バス 10分 富士川駅

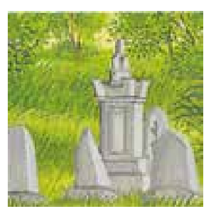
※山梨交通バスは、1時間に1本程度


━ :旧身延道
至 南松野
富士川体育館
旧身延道
身延道・富士川身延線
木島
石造物群
木島不動尊
円通寺
庚申堂
庚申塔
不動明王
ぶらりウォーキングコース
通行止め(復旧未定)
子ノ神社
石造物群
石造物群
石造物群
松雲寺
小山北
馬頭観音
庚申塔
至 富士川楽座
木島

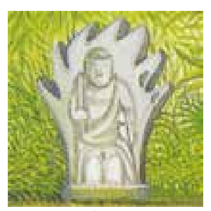
路傍の野仏に古き民間信仰を偲ぶ（木島地区）

木島地区は、木島集落、室野集落のそれぞれまとまった範囲で、さまざまな石造物を見つけることができます。

◆木島地区で見られる主な石造物


庚申塔

【不動明王】　不動明王は、大日如来の化身で、いっさいの罪障を打ち破り動揺しないことから、不動といいます。治病、安産、災害の除去、怨敵降伏、浄福など、さまざまな祈願をかなえてくれるとされています。　☞**木島不動尊**


不動明王

【庚申塔】　庚申信仰は、中国の道教の三尸説（人間の腹の中の三尸という虫が、庚申の夜に睡眠中の身体から抜け出て天に昇り、天帝にその罪過を報告する。）の伝来が始まりです。庚申の夜は、眠らずにいなければ死がおとずれたり不幸がおこるといわれ、人々は庚申の夜は眠らずに過ごしたといいます。また、青面金剛は、庚申の本地として信仰されています。　☞**木島庚申堂、室野集落**

【馬頭観音】　馬頭観音は、頭上に馬の頭をいだいた観音像で、唯一憤怒相をしています。馬の供養とあわせて、特に江戸時代、庶民に信仰されました。　☞**室野集落**

【六地蔵】　地蔵が、六道（地獄道、餓鬼道、畜生道、修羅道、人間道、天上界）を輪廻転生する衆生を救済することから、六つの分身を考えて六地蔵として信仰されました。　☞**松雲寺、円通寺**

【巡拝塔】　江戸時代に西国三十三所、四国八十八所、または坂東や秩父の霊場などを巡拝した人たちが寄進した供養塔です。　☞**松雲寺、円通寺**

【石祠】　奇石、霊石、石剣などを神体として祀る民間信仰の祠です。　☞**子ノ神社**

※子ノ神社では「力石」も見ることができます。

「道端にたたずむ石造物を訪ねる」

不動明王、庚申塔、馬頭観音などを訪ね山道を歩く

移動時間 約 1 時間 35 分

富士川駅 ▶バス 10分 富士川楽座バス停 ▶バス 3分 木島バス停 ▶徒歩 5分上り 庚申堂 ▶徒歩 10分 木島不動尊 ▶徒歩 30分上り 子ノ神社 ▶徒歩 5分 庚申塔 ▶徒歩 15分下り 明見神社 ▶徒歩 5分下り ふれあい耕房ふじかわ ▶徒歩 10分下り 富士川楽座バス停 ▶バス 5分 富士川駅

※山梨交通バスは、1時間に1本程度

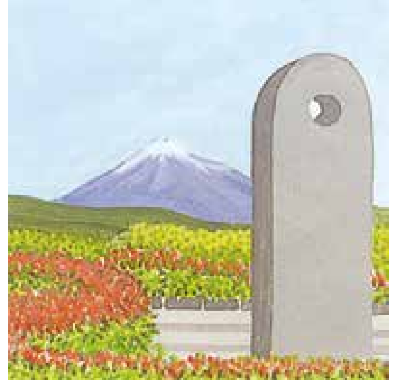
WALKING　GUIDE・MAP

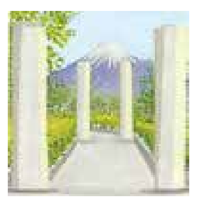
FUJIKAWA ぶら～りふじかわ

日本一の富士山と日本三大急流・富士川の眺めは
世界に誇れる財産

さりげなく、いつも日本一。

「四季折々、また朝夕さまざまな表情で、私たちを魅了する富士山」


昭和天皇の歌碑


駅前小公園

富士川橋

富士山にはさまざまな顔があります。公園から見る富士山、富士川河川敷から見る富士山、旧東海道から見る富士山、畑から見る富士山、山あり川ありさまざまな造形物が富士山の魅力を一層引き立てます。富士山が最も良く見える時期は、おおむね10月から翌年2月までの期間で、晴れた日には美しい富士山の姿を見ることができます。

春から夏にかけては、冬の期間に比べて、姿を見せる回数こそ少ないものの、大雨の直後などに見られる夏富士は、さまざまな変化を見せる雲の情景とともに力強く趣深い姿を見せてくれます。

道の駅がサービスエリアとドッキング！

「富士川楽座は、高速道路のSAと一般道から利用できる、日本初の道の駅！！」

富士川楽座は、遊びながら楽しく学べる展示施設「体験館どんぶら」、プラネタリウムが楽しめる「わいわい劇場」、フジヤマギャラリーのほか、レストラン、フードコート、地域産品をあつかう物販コーナーなど、それぞれのフロアに趣向をこらしたアミューズメントモールです。

富士川楽座

○8：00～20：30　※体験館、シアターは9：30～17：00
○年中無休　※体験館、シアターは毎週火曜日休館
○富士川まちづくり㈱　0545-81-5555
○JR富士川駅→富士川楽座バス停（山梨交通バス約8分）
○東名高速道路富士川SA（上り線）又は主要地方道富士川身延線
※山梨交通バスは、1時間に1本程度

富士川

（流域面積3,983㎢・幹線流路延長128㎞）

ふるくから最上川、球磨川とならび日本三大急流のひとつに数えられている。駒ヶ岳を源に長野県、山梨県、静岡県にまたがる大河で、甲府盆地から急峻な山間地を流れ、笛吹川、早川などの支川と合流し、河口近くで半径約7㎞の三角州をつくって駿河湾へ注いでいる。

心も体も元気^2！！

「歴史と自然を満喫できるおすすめのコース」

「旧東海道・野田山コース」 旧東海道、野田山緑地公園から広がるパノラマ景観

移動時間 約3時間50分
富士川駅 ▶ 徒歩15分 ▶ 一里塚 ▶ 徒歩10分 ▶ 小休本陣常盤邸 ▶ 徒歩15分 ▶ 芭蕉の句碑 ▶ 徒歩1時間50分上り ▶ 野田山健康緑地公園 ▶ 徒歩40分下り ▶ 善福寺 ▶ 徒歩20分上り ▶ 御殿山 ▶ 徒歩20分下り ▶ 新蒲原駅

「荒澤不動尊・はたご池コース」 威厳ある荒澤不動尊、はたご池からの富士山を満喫

移動時間 約3時間40分
富士川駅 ▶ バス10分 ▶ 富士川楽座バス停 ▶ バス10分 ▶ 北松野バス停 ▶ 徒歩30分 ▶ 荒澤不動尊 ▶ 徒歩30分上り ▶ はたご池 ▶ 徒歩50分下り ▶ 大代峠 ▶ 徒歩1時間10分 ▶ 北松野バス停 ▶ バス10分 ▶ 富士川楽座バス停 ▶ バス10分 ▶ 富士川駅

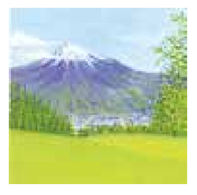
「東海自然歩道バイパスルート」 妙松寺から御殿山まで、木立の中を縦走

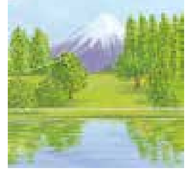
移動時間 約5時間15分
富士川駅 ▶ バス10分 ▶ 富士川楽座バス停 ▶ バス10分 ▶ 堀之内バス停 ▶ 徒歩5分 ▶ 妙松寺 ▶ 徒歩1時間10分上り ▶ はたご池 ▶ 徒歩50分下り ▶ 大代峠 ▶ 徒歩1時間30分上り ▶ 野田山健康緑地公園 ▶ 徒歩40分下り ▶ 善福寺 ▶ 徒歩20分上り ▶ 御殿山 ▶ 徒歩20分下り ▶ 新蒲原駅

「ぶらりウォーキングコース」 四季の特産品、果樹園からの富士山の眺望

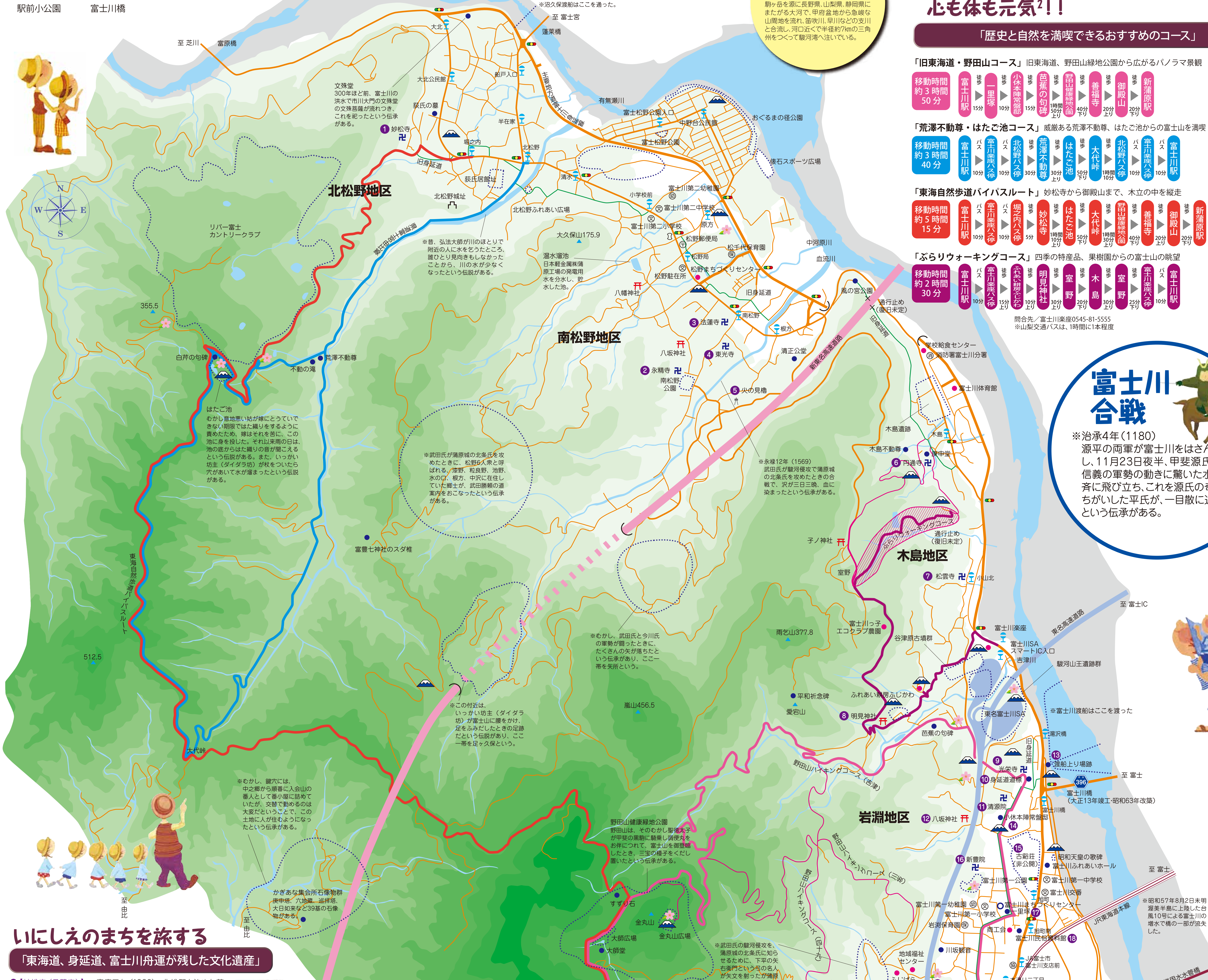
移動時間 約2時間30分
富士川駅 ▶ バス10分 ▶ 富士川楽座バス停 ▶ 徒歩15分上り ▶ ふれあい耕房ふじかわ ▶ 徒歩10分上り ▶ 明見神社 ▶ 徒歩30分上り ▶ 室野 ▶ 徒歩20分下り ▶ 木島 ▶ 徒歩30分上り ▶ 室野 ▶ 徒歩25分下り ▶ 富士川楽座バス停 ▶ バス10分 ▶ 富士川駅

問合先／富士川楽座0545-81-5555
※山梨交通バスは、1時間に1本程度


野田山健康緑地公園


はたご池

ふれあい耕房ふじかわ



富士川合戦

※治承4年（1180）
源平の両軍が富士川をはさんで対陣し、11月23日夜半、甲斐源氏の武田信義の軍勢の動きに驚いた水鳥が一斉に飛び立ち、これを源氏の奇襲と勘ちがいした平氏が、一目散に退去したという伝承がある。

いにしえのまちを旅する

「東海道、身延道、富士川舟運が残した文化遺産」

❶**【妙松寺（日蓮宗）】**　康応元年（1389）、北松野を治めた荻次郎左衛門氏誉が創建、顕本法華宗の日什上人が開山しました。弘治元年（1555）、宇佐美善左衛門が土地と屋敷を寄進したことにより現在の場所に移築されました。山門（1837年～1854年建立）や愛染明王などがあります。

妙松寺

❷**【永精寺（日蓮宗）】**　弘安6年（1283）、松野を治めた松野六郎左衛門行成が創建、日持上人が開山し蓮永寺と名付けましたが、その後、徳川家康の愛妾・お万の方が駿府に菩提寺を建立する際に寺格を移転され、永精寺と改められました。日持上人は、日蓮聖人の六老僧と称される弟子で、永仁3年（1295）、布教のために中国大陸に渡ったと伝えられています。

永精寺

❸**【法蓮寺（日蓮宗）】**　天文10年（1541）、日清上人が法華堂を開山し、その後、5世・日松上人により法蓮寺と名付けられました。蔵人職にあった初代・松野六郎左衛門尉行易の居館があった場所と伝えられていることから蔵人屋敷といわれています。

法蓮寺

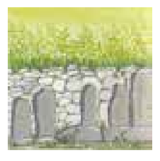
❹**【東光寺（臨済宗）】**　臨済宗妙心寺派に属し、清見寺の末寺です。寺伝によれば、宝珠護国禅師（今川義元の軍師・大原崇孚）の開山と伝えられていますが、永禄3年（1560）と寛政元年（1789）に火災にあい、堂宇や古文書などを焼失してしまったため、開創由緒は不明です。

東光寺

❺**【火の見櫓】**　昭和26年に旧東海道沿いに建設され、平成17年に再建されたもので、国の有形登録文化財に指定されています。屋根は八角形と、特異な形状となっており富士山と一体となった風景は絶景です。

火の見櫓

❻**【円通寺（曹洞宗）】**　富士市の永源寺4世・富岳了銀和尚が開創、天正3年（1575）、逐雲角随和尚により開山されました。


円通寺

❼**【松雲寺（曹洞宗）】**　永禄3年（1560）、渡船鎮護のために松岩長和尚が開創し、元禄13年（1700）、永源寺11世・霊明韻英和尚が開山しました。

松雲寺

❽**【明見神社】**　慶長年間以前、秀坂長者により愛宕山の頂上に勧請され、寛文2年（1662）、旧明見山に移築されたと伝えられていますが、文化3年（1806）には野火により焼失しました。このため、明治16年、現在地へ移転勧請されました。社殿には、明和5年（1768）に寄進されたとされる白馬の木像があります。

明見神社

❾**【光栄寺（日蓮宗）】**　天正10年（1582）、等覚寺3世・日正上人が岩淵大畑に法華堂を開山しましたが、その後、万治元年（1658）に初代・大村惣右衛門の妻・宝樹院の寄進により現在の場所に移築されました。境内には題目道標、境内西側の階段下には身延山道標があります。

光栄寺

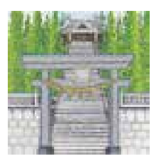
❿**【身延道道標】**　東海道から日蓮宗総本山久遠寺に参詣する旅人は、岩淵を起点とする身延山道から北へ南松野、北松野の立場を経て内房へぬける、岩淵→木島→南松野→北松野・妙松寺横→廻沢→惣沼→内房塩出→小葉山→万沢のルートをとおりました。

身延道道標

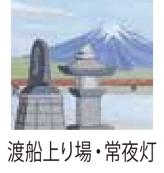
⓫**【清源院（曹洞宗）】**　天正年間（1573～1591）、祐天慶公和尚が岩淵下屋敷に立、元禄4年（1599）、心岳寺11世・星山茂天和尚が開山し、宝永4年（1707）、富士川の洪水を逃れるため、現在の場所に移築されました。境内には、渡船供養塔があります。

清源院

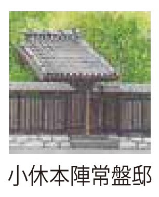
⓬**【八坂神社】**　慶長7年（1602）以降、渡船鎮護のため岩淵大畑に勧請され、寛政7年（1795）に現地に遷座されました。祭神は牛頭天王または健速須佐之男命とされています。この神社は、12年毎の申年に富士山頂に鳥居を寄進する行事があり、伝承によれば渡船の用材を浅間神社領から伐採したことから、御礼と渡船の安全祈願をかねて、鳥居を寄進したのが始まりといわれています。


八坂神社

⓭**【渡船上り場常夜灯】**　渡船の安全祈願と夜間緊急時に船を着けるための目印としてつくられたといわれています。
かたわらにある石碑は、舟運を目的に岩淵河岸から甲州鰍沢まで富士川の開削をおこなった京都の豪商・角倉了以を顕彰した紀功碑です。明治の元勲、田中光顕伯爵の撰文です。


渡船上り場・常夜灯

⓮**【小休本陣常盤邸】**　東海道岩淵間宿に現存する唯一の歴史的建造物で、国の有形登録文化財に指定されています。
現存する建物は、安政大地震以降に改築されたもので、庭園には槇（根回り6m目通り4.5m高さ10m）があります。
○土・日・祝日公開　※平日の見学を希望する場合は要予約
○富士市立博物館　0545-21-3380


小休本陣常盤邸

⓯**【古谿荘】**　土佐出身の明治の元勲、田中光顕伯爵が3年の歳月をかけて明治43年に完成させた別荘で、明治の近代和風建築として高く評価されています。
現在は㈶野間文化財団が所有していますが非公開となっています。※国指定重要文化財（建造物）

古谿荘

⓰**【新豊院（曹洞宗）】**　正治元年（1199）、真言宗の寺院として開創されましたが、心岳寺3世・学叟昌文和尚が曹洞宗に改宗し、天文4年（1535）に開山されました。境内には、山門（1679以前建立）、薬師如来像、聖観音像や岩淵渡船河岸場安全塔、三十三体の観音石像を四国三十三所の札所になぞらえた西国巡礼供養塔、火伏地蔵などがあります。

新豊院

⓱**【岩淵の一里塚】**　慶長9年（1604）、徳川秀忠が大久保長安に命じて、東海道整備の一環として、一里（約4㎞）ごとに街道の両側に塚を築かせ、塚には主に榎が植えられました。
ふたつの塚が当時のまま残っているところはほとんどなく、たいへん貴重で、県指定文化財に指定されています。

一里塚

⓲**【富士川民俗資料館】**　南松野の稲葉家（建坪26坪、間口6.5間、奥行4間、間取り8畳4間、土間10坪）を移築したもので、江戸時代中期の富士川下流域の農家住宅の代表的な様式の家屋です。建物の内部には、農具、民具などが常設展示されています。
○土・日・祝日公開　※平日の見学を希望する場合は要予約
○富士市立博物館　0545-21-3380

富士川民俗資料館

⓳**【慈林寺（曹洞宗）】**　心岳寺5世・太意孝舜和尚が開創、天正10年（1582）、心岳寺4世・蒲山孝順和尚により開山されました。境内には槇（目通り2.8m　高さ8m）があります。

慈林寺

⓴**【等覚寺（日蓮宗）】**　正応元年（1288）、日位上人が四十九の地に開山しました。寺の縁記によると、当初は持仏堂と小庵のみでしたがしだいに多くの土地を所有するなど、一時は隆盛をきわめましたが、永禄12年（1569）、武田氏の蒲原城攻撃により寺が焼失してしまいました。現在地への移転は、永禄年中といわれています。

等覚寺

㉑**【宗清寺（曹洞宗）】**　慶長2年（1597）、中之郷村名主・六郎左衛門宅に滞在していた浄岩守清和尚が、土地1反歩を買取り寺を創建し、正保2年（1645）、安養寺4世・太嶽宗伯和尚が開山しました。宗伯は自分の宗の字と守清の清の字をとって宗清寺と名付けました。境内には、財笠被地蔵があります。

宗清寺

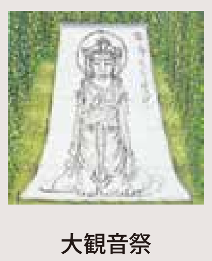
㉒**【宇多利神社】**　明治8年、祭神に天照大神ほか6柱を勧請して祭祀していますが、もともとは七社権現社と称して、滋賀県大津市の日吉神社の前身である山王七社権現社の系統に属する神社で、明治初年まで宗清寺が支配していました。境内には、七社権現社当時の石灯籠があります。

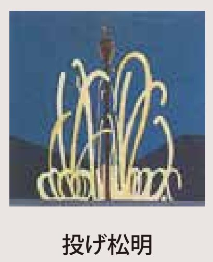
宇多利神社

▲ 富士山ビューポイント　✿ 桜のみどころ　✿ 梅のみどころ

にぎやか、にぎやか！

「先人たちが守り伝えた年中行事」


大観音祭
大正13年、大村西崖画伯が昭和天皇のご成婚を記念して描いた180反の聖観音像が新豊院で開帳されます。


投げ松明
富士川下流で唯一の川供養行事。竹で作ったもじりを約10mの木柱にくくりつけ、火のついた松明を投げ入れます。

1月14・15日	どんど焼き
2月28日に最も近い日曜日	木島不動尊例祭（木島）
2月末の日曜日	文殊祭（大北町）
旧暦2月8日	荒澤不動尊（佟下町）
3月第1日曜日	東町稲荷社の初午祭（東町）
3月17・18日に最も近い土・日曜日	大観音祭（新豊院）
4月第1日曜日	明見神社例祭（岩渕地区）
4月第1日曜日	四十九薬師堂例祭（四十九町）
7月1日	鬼子母神例祭（等覚寺）
7月中旬の土曜日	祇園祭（岩渕地区・南松野地区）
7月23日に最も近い土曜日	清正公例祭（根方区）
7月24日に最も近い土曜日	地蔵尊例祭（宗清寺）
7月中旬	風祭り（木島・南松野地区）
8月10日	川坂観音祭（川坂）
8月15日	川カンジー・投げ松明（大北町）
8月16日	投げ松明（木島）
10月16日に最も近い土・日曜日	宇多利神社例祭（中之郷地区）
10月下旬の日曜日	三尊祭（新豊院）
11月の日曜日	ふじかわキウイマラソン